

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

# 英語を教育言語とする 学士課程教育の展開

—教養教育・専門教育・専門実務教育の統合—

大阪女学院大学

国際・英語学部

Osaka Jogakuin College

*Department  
of*

*International & English Interdisciplinary Studies*

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## ● 取組の内容・ポイント

### 本学特色GP 取組の概要 その1

急速なグローバル化・情報化が一層進む世界において、大学は国際通用性のある高い質を保証する教育を求められている。「人格形成」という普遍的目的を大学教育の基礎として保持しながら、高い専門性を持った人材の育成を目指す意において、従来の「学部教育」は「学士課程教育」として捉え返されることとなった。



取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 本学特色GP 取組の概要 その2



**本取組は**語学力の技能や知識の修得のみを目的にするのではなく、また従来の学部教育の観念にとらわれない新しい視点で、**教養教育、専門教育及び英語教育を統合させた教育プログラム**である。

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 本学特色GP 取組の概要 その3

21世紀の人类的課題を学びのコンテンツとする教養教育及び国際通用性のある専門実務能力の獲得を目指す専門教育は、共に**英語を教育言語として展開**される。

さらに、学習支援センタの常設やWeb上に展開するIT環境等体系化された多様な支援体制を整備し、知識基盤社会の進行に対応する大学教育を展開し効果を上げている。



# 大学に対する社会的ニーズ

①文化の多様性を前提とした現代的課題への理解

→ 教養教育

②プレゼンテーション能力等の質の高い発信力を  
基礎としたコミュニケーション能力の増進

→ 英語教育

③実質的な問題解決能力の養成

→ 専門教育

④国際社会や地域社会の課題に積極的にコミットし  
うるリーダーシップの担い手の育成

→ 専門実務教育

# 大阪女学院大学の ——学士課程教育の捉え方

人格の形成

国際的通用性

人材の育成

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

# 大阪女学院大学 国際・英語学部の 学士課程教育は

教養教育・英語教育・専門教育・専門  
実務教育を統合、融合させた  
教育課程全体に関わる教育です。

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

# 大阪女学院大学 学士課程教育の目標

21世紀の社会が抱える諸問題に、  
**卓越した語学力と高度な専門能力**を駆使し、  
国際社会や地域社会に積極的にコミットする  
リーダーシップの担い手となる女性の育成。

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学



# 大阪女学院大学

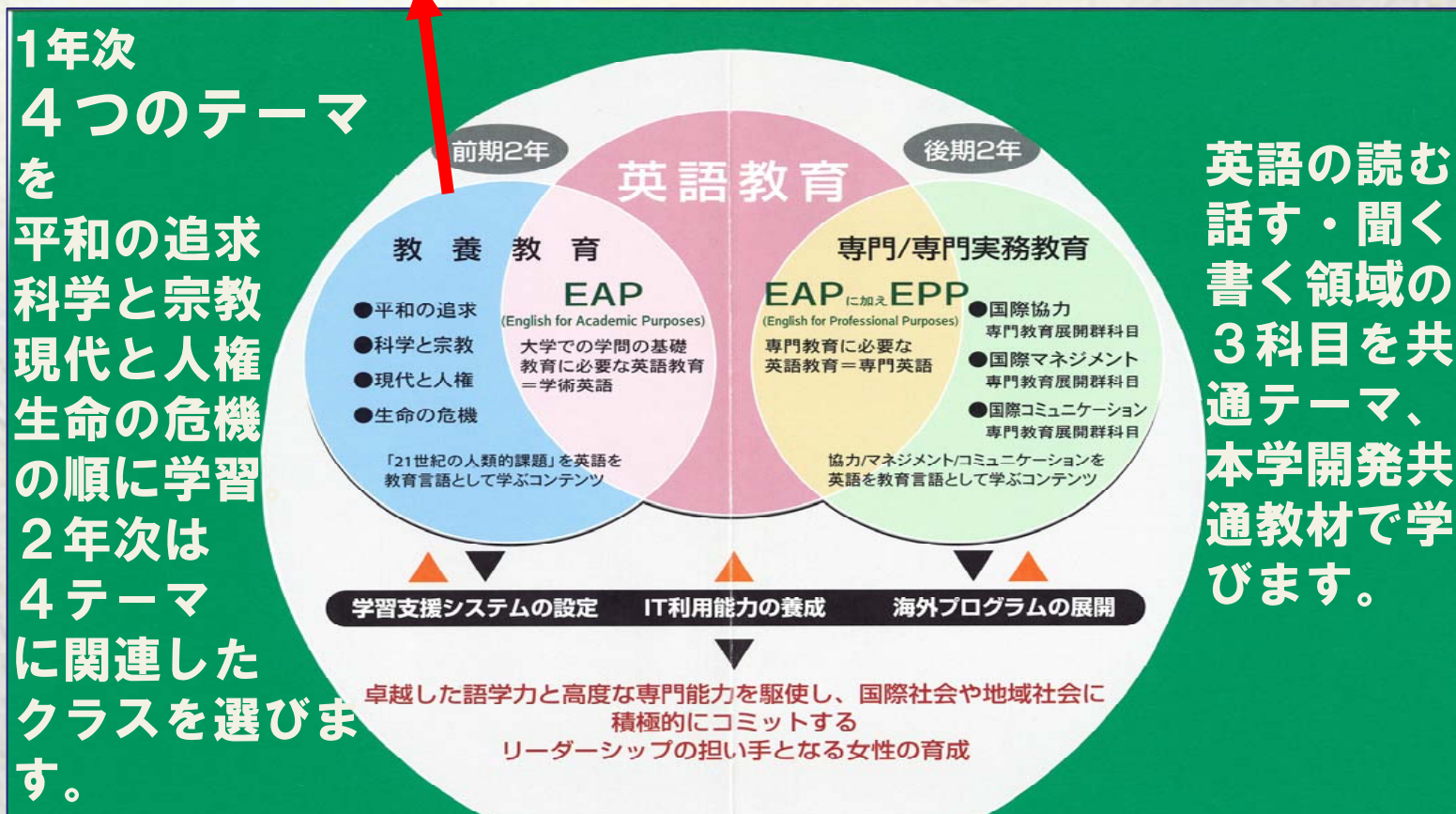
## 前期2年の教育課程

- 自己の形成（自己への気づき群）
- 現代の課題（現代教養群及世界の言語群）
- 研究調査の方法群  
(情報の理解と活用／社会調査法／統計分析)
- **英語基礎群・英語展開群**
- 専門コース別基礎群  
(国際協力／国際マネジメント／国際コミュニケーション)

# 取組の全体概要図 前期2年間

## 教養教育と英語教育の統合

### 21世紀的課題を学習テーマにした英語教育の展開



英語の読む、  
話す・聞く、  
書く領域の  
3科目を共通  
テーマ、  
本学開発共通  
教材で学  
びます。

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

# 英語教育と教養教育の統合

英語を教育言語として「21世紀の人类的課題」  
を学ぶコンテンツ



- 平和の追求
- 科学と宗教
- 現代と人権
- 生命の危機

# 専門課程の教育課程

英語教育と専門／専門実務教育の統合



国際協力群

国際マネジメント群

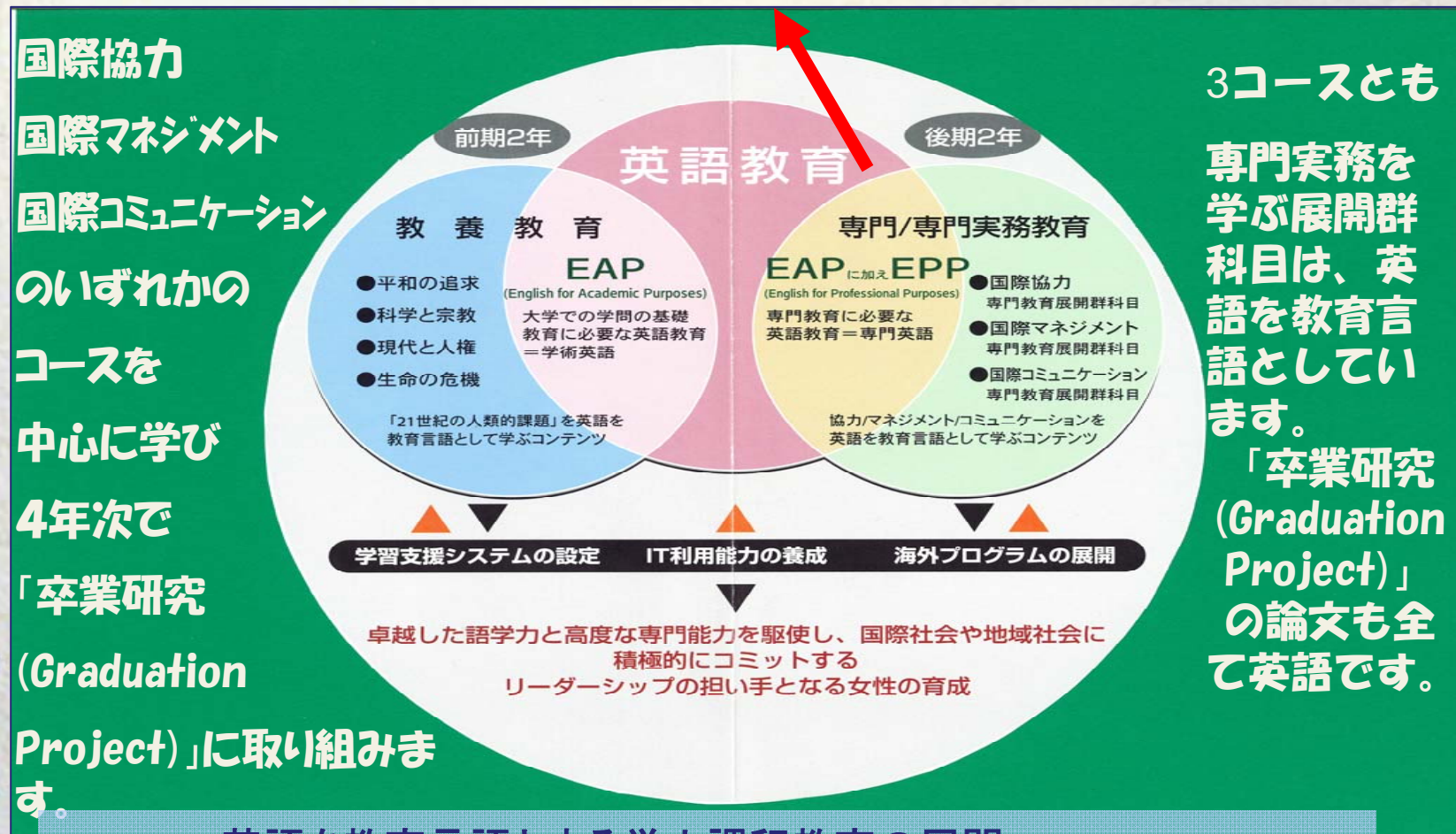
国際コミュニケーション群

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 取組の全体概要図 後期2年間

### 専門教育と英語教育の統合

### 3コースの専門実務教育科目を英語で学ぶ



取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 英語教育と専門／専門実務教育の統合

- 英語の4技能に加えて批判的な分析能力の育成
- 上級ディスカッション能力の育成
- 上級プレゼンテーション能力の育成
- 上級論文作成能力の育成



Graduation Project(卒業研究)に集約

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 英語を教育言語とする科目

一年次英語基礎群科目(必修)	9単位
一・二・三年次英語展開群科目(必修)	29単位
英語基礎群選択必修科目	14単位
専門コース展開群科目(選択必修)	12単位
専門コース必修科目「卒業研究」	6単位
計 (卒業要件124単位に占める割合)	70単位 (56.5%)

卒業要件単位の内、56.5%の科目を英語を教育言語として学びます

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

# Graduation Project(卒業研究)

- 1.4年次に専門3コースから選択する(全員必修)
- 2.担当専任教員の指導を受けて調査研究
- 3.英語によるプレゼンテーションを行なう
- 4.A4サイズ20枚程度の英語の論文作成

## 国際協力コースのGraduation Project (卒業研究) のテーマの例

- *Child labor in India* (第1期生)
- *Selling of Organs for Organs Plant*
- *Sex Trafficking: Filipino Entertainers in Japan*

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学



# 授業風景



取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## ● 取組の成果

# ラーニング・アウトカムズ (学習成果)



「卒業研究」(Graduation Project)ポスターセッション風景

学生の卒業研究のプレゼンテーションはこちらからご覧いただけます。

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/streaming/20091202>

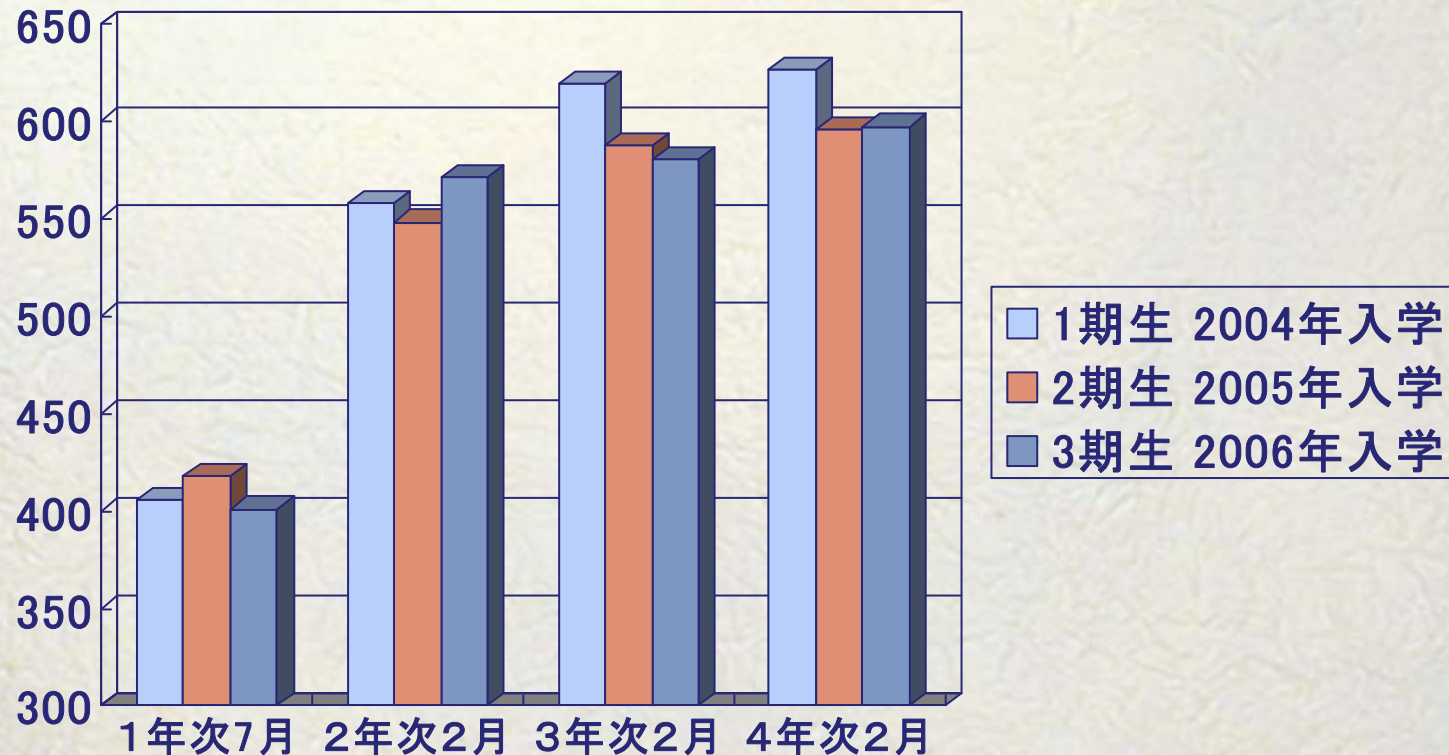
取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## TOEIC-IPに見る本学学生の 英語力の伸張 【表】

	1年7月	2年2月	3年2月	4年2月
本学第1期生 2004年度入学生	406	558	619	626
本学第2期生 2005年度入学生	418	548	587	595
本学第3期生 2006年度入学生	401	571	580	597

取組名称: 英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名 : 大阪女学院大学

## TOEIC-IPに見る本学学生の 英語力の伸張【グラフ】



取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## TOEIC-IPに見る本学学生の 英語力(4年修了時)

	Total	Listening	Reading
本学第1期生 2004年度生	626	345	281
本学第2期生 2005年度生	595	335	260
本学第3期生 2005年度生	597	335	262
企業新入社員 受験者(55,375人)平均	456	250	206

2008年度TOEICテストIP DATAとの比較

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## TOEICに見る学生の三年間の英語力の伸長例

	1年 7月末	3年 終了時	点数の 伸長
学生 A	330	755	425
学生 B	395	780	385
学生 C	410	785	375
学生 D	420	790	370
学生 E	365	725	360
学生 F	330	685	355
学生 G	445	795	350
学生 H	370	720	350

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## TOEICに見る学生の三年間の英語力の伸長例

	1年 7月末	3年 終了時	点数の 伸長
学生 I	685	875	190
学生 J	705	830	125
学生 K	490	800	310
学生 L	550	800	250
学生 M	520	780	260
学生 N	520	775	255
学生 O	600	775	175
学生 P	565	765	200

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 本学学生一人あたりの平均館外貸出冊数

本学 (平成19~21年度の平均)	国立大学 (平成20年度)	公立大学 (平成20年度)	私立大学 (平成20年度)
30.6	9.4	13.6	7.4

日本図書館協会発行「図書館年鑑2009」より

英語または日本語でリサーチペーパー（小論文）を書くことが求められる授業科目が多いため、参考文献となる図書の貸し出しが自ずから増える学習構造になっています。

特色GP採択により参考文献の充実につながりました。

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
 大学名：大阪女学院大学



## 学生の達成度評価アンケートより

英語で記述する論文の論理展開法が理解できた

※APAスタイルに準拠した英語論文の書き方が理解できた

プレゼンテーションの方法が理解できた

世界事情についての興味・関心が増した

専門領域に関する興味・関心が深まった

専門領域に関する知識を得ることができた

専門領域での英語運用力を伸ばすことができた

※米国心理学会が採用する比較的世界で使われていることの多い論文の記述様式

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開

大学名：大阪女学院大学

# 教育効果を上げる工夫 その1

- ① 教育目標の明確化
- ② 教育目標の共有
- ③ 体系性のある教育課程
- ④ 教育の質を保証するための教育組織の編成
- ⑤ 自主共通教材の開発

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 その2

- ⑥ 習熟度別・少人数クラス編成
- ⑦ 到達度測定方法の開発
- ⑧ IT利用能力の養成とIT学習環境の整備
- ⑨ 学習支援システムの設定
- ⑩ 海外プログラムの展開

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ①

# 教育目標の明確化

- 英語科目における、到達目標・授業展開方法・教材・評価方法の比率の共有

## 教育効果を上げる工夫 ②

# 教育目標の共有化

- 全講師対象オリエンテーション及び全英語教員対象のワークショップの開催

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ③

### 体系的のある教育課程

- 教養教育、英語教育、専門教育、専門実務教育の統合・融合
- 四年間の学びを通して、IT活用・研究調査・論理的思考・論文作成・プレゼンテーションの力を積み上げる

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ④ その1

# 教育の質を保証するための 教育組織の編成

○教育課程全体を見わたす

アカデミックコーディネーターの配置

○英語教育科目におけるリエゾンおよび

チームリーダーの配置

○専門教育課程 各コースのリエゾンの配置

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開

大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ④ その2

### アカデミックコーディネーターと 英語教育科目リエゾン、チームリーダーの役割構成

#### アカデミックコーディネータのもとに

同一クラス担当者と学生の学習状況を共有する場  
を持つ**チームリーダー**を縦軸、

同一教科の共通学習目標の進捗管理をする  
**リエゾン**を横軸として

いずれのクラス受講者も均質な授業を受ける機  
会を得られる仕組みを構築しています。

## 教育効果を上げる工夫 ⑤

# 自主共通教材の開発

○1年次必修科目

「Topic Reading」

「Topic Discussion」

「Topic Writing」の

共通教材を自主開発

しています。



1年次英語自主作成共通教材「平和の追求」  
「科学と宗教」とTeacher's マニュアル

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開

大学名：大阪女学院大学



## 教育効果を上げる工夫 ⑥ その1

### 英語習熟度クラス編成

科目群	英語習熟度別 レベル
一年次英語必修科目	4レベル
二・三年次英語必修科目	7レベル又は2レベル
専門コース展開群科目(選択必修)	3レベル
英語基礎群選択必修科目	2レベル

一人ひとりの学生の力の伸張のため、各自に最適な英語習熟度別クラスで学習します。

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ⑥ その2

### 少人数クラス編成

2009(平成21)年度	548クラス中
20名以下のクラス	277 (50.5%)
30名以下のクラス	474 (86.5%)

## 教育効果を上げる工夫 ⑦

### 英語力達成度測定方法の開発

Web上で行なう英語オンラインテストの開発と英語習熟度を測定するフレースメントテストの改訂を行ないました。

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ⑧

### IT利用能力の養成とIT学習環境の整備

- 学内LANで行なう英語オンラインテストの開発と実施→  
英語力の自己診断が可能となりました。
  - 「クワイテリオン(Web上の英作文評価システム)」の活用→  
英語論文の自主チェックが時と場所を選ばず可能です。
  - 学生がプレゼンテーションするための映像等資料の収集・発表  
を支援する機器整備 →プレゼンテーションのIT化が進みました。
- 他、様々な整備が進み、取組に係る授業に活用しています。

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ⑨

# 学習支援環境の整備

### ○学習支援センター (SASSC) を常設

- ①ライティングセンターで  
英語作文力育成の支  
援を行っています。
- ②イングリッシュスピーキングラ  
ウンジを英語話者と自  
由に話す場としてい  
ます。



取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ⑩

### ——海外プログラムの展開

- 海外インターンシップ
- 海外フィールドワーク
- セメスター留学

問題意識の涵養と専門実務、英語力の研鑽

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ⑩ その1

### 海外プログラムの展開

#### ○海外インターンシップ(2単位)

8月上旬から海外の企業等で6週間勤務するプログラム参加資格はTOEIC640点以上の3・4年生、それぞれに35万円の奨学金を用意しています。



#### 年度別参加者数 (人)

年度	豪州	NZ	米国	香港
2006		1	2	1
2007	7	6	2	3
2008	2	6	2	1
2009	8		2	1

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
 大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ⑩ その2

### 海外プログラムの展開

#### ○海外フィールドワーク（2単位）

2・3年次を対象に8月9月に実施。途上国等で社会開発支援を行なっているNGOや台湾の学齢期の英語教育の現場等での2週間程度の体験実習です。一人あたり10万円の奨学金を用意しています。英語力での参加資格は特にありません。



#### 年度別参加者数 (人)

年度	人数	派遣先
2006	18	バングラデシュ 香港 台湾
2007	43	ベトナム インド ネパール バングラデシュ 香港 台湾
2008	34	カンボジア ネパール 東ムラेशマール 香港 台湾 アジア学院
2009	32	インド マーシャル カンボジア ベトナム 香港 台湾 アジア学院

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
 大学名：大阪女学院大学

## 教育効果を上げる工夫 ⑩ その3

### 海外プログラムの展開

#### ○セメスタ留学（取得単位を単位認定）

3・4年次の4ヶ月間、専門科目の学習を主目的とした提携大学の正規の課程への留学です。

TOEIC640点以上が必要です。通常35万円の奨学金を用意しています。100万円の奨学金支給の特別セメスタ留学制度もあります。



#### 年度別参加者数（人）

年度	人数	留学先大学と人数内訳
2006	12	リンカーン大(NZ)2、梨花女大(韓国)3、元智大(台湾)6、香港バプテスト大1
2007	18	梨花女大(韓国)7、元智大(台湾)9、香港バプテスト大2
2008	22	梨花女大(韓国)11、元智大(台湾)10、香港バプテスト大1
2009	8	梨花女大(韓国)4、元智大(台湾)4

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開

大学名：大阪女学院大学



## ● 学内外からの評価

### ○英語を教育言語とする専門科目の授業公開

2007年～2009年の秋学期に高等学校の英語科の先生方を対象に実施し、近畿各県や福井県から各年 20数名の先生方に来学いただき、高い評価をいただきました。

### ○日本各地の大学等からの訪問

当取組に係る本学のカリキュラムについてのお尋ねに毎年 2～3大学の関係者がお越しになります。  
本学の担当者からご説明しています。

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 今後の計画

○この取組は、今後も本学の教育課程の中核として取り組んでいきます。特に専門教育と英語教育の統合の取組についての工夫を重ね、海外プログラムの充実と併せて進めてまいります。

## 今後の課題

○教養教育を保持しつつ、専門性を持った人材の育成が求められる学士課程教育の中で、英語を媒体言語とする専門教育の意義、達成目標、位置づけ、効果などの検証を引続いて進めてゆくことが課題です。

取組名称：英語を教育言語とする学士課程教育の展開  
大学名：大阪女学院大学

## 大阪女学院大学のミッション・ステートメント

本学は、キリスト教に基づく教育共同体である。  
その目指すところは、真理を探究し、  
自己と他者への尊厳に目覚め、  
確かな知識と豊かな感受性に裏付けられた洞察力を備え、  
社会に積極的に関わる人間の形成にある。

### 大阪女学院大学の学部及研究科の構成

国際・英語学部 国際・英語学科

大学院21世紀国際共生平和・人権システム専攻

博士前期課程（M）博士後期課程（D）



Osaka Jogakuin

Since 1884